

1 段落の関係を理解する

考え方

1 いきなり二つに分けるのはむずかしいので、各形式段落の要点(中心となる内容)を整理して、それらの関係を考えてみましょう。①〜④段落までは「みっともない」という言葉について説明されていますが、⑤段落から先は、さらに説明する対象が広がり、「言葉」の「本質」と、言葉を使うときに気をつけたいことが述べられています。これは筆者の意見(考え)です。

筆者の考えがどこからどこまでかを考えると、段落の関係を理解するうえで大切な視点です。

2 1で解説しましたが、①〜④段落までは「みっともない」という具体的な言葉について説明されています。社長の話も具体例ですね。そして、⑤段落で「言葉の意味は使われる場面によって、受け取られ方が変わる」という筆者の考えが出てきます。これは①〜④段落の具体的な話題から導かれたことです。この流れに合うのはウです。

段落のはたらきを考えると、具体例との関係に注意するとよいですね。

答え

1
2
ウ 5

2

段落の関係を理解する ①

考え方

1 ①の前に「技術、そして科学技術は、その時代に生きている人々によって求められ発展してきたものであるはずですから、わたしたちはそれらの科学技術を使う主人公です」とあります。主人公であれば、科学に対して主導的な立場に立てるはずですが、しかし、そのようになっていないのでしょうか。④段落に「科学的理論と実用化のレベルが複雑で高度なために、ひとにぎりの人たちにしかわからないおもしろいものになってしまっているのは事実です」とあるように、わたしたちの科学に対する理解は科学の発展とともに進んではいけません。

2 (A)より前では「わたしたちの科学技術に対する理解は、科学の発展とともに進んでいるでしょうか」という問題提起がされていますから、「あなたの周りで、『科学はむずかしいから』と決めつけて、苦手だと思っている人」とは、その具体例ですね。それを導くのは、イ「たとえば」です。

3 ⑤段落前半の内容を整理しましょう。

マニュアルの使用

そのしくみなどを知る必要はない

=

供給する側から示された技術の「良い部分」しか見えない。

4 文の組み立て ①

考え方

- 「美しい花が、明日にはきっとさくだろう。」というふうの語順に直すと、主語・述語がとらえやすくなります。
- 答えはどの組み合わせを先に書いてもかまいません。

①「雨の」「ふる」が主語・述語の関係でひとまとまりとなり、続く「休日に」をくわしく説明しています。このように助詞「の」がついて主語になることもあります。もう一組みは「わたしは」「読書する」の組み合わせです。

- ①と②は重文、②と③は複文、③と④は単文です。

- ①「何は—何だ」、②「だれは—どうする」という形になるように書き直しましょう。

答え

- 1 つばめが 2 妹でも 3 花が 4 教えるのは
 - 1 (主語) ア (述語) ク / (主語) イ (述語) ウ
 - 2 (主語) イ (述語) ク / (主語) エ (述語) オ
 - 3 (主語) ア (述語) イ / (主語) ウ (述語) ク / (主語) オ (述語) キ
 - 1 イ 2 ア 3 ウ
- 【例】 毎朝あさがおに水をやることです
- 【例】 かれの考えはすばらしいと思いました

5 文の組み立て ②

考え方

- 1 修飾語と被修飾語をつなげて読み、意味が通るかを確かめましょう。

③ ①いつ「書いた」のかを説明しています。「書いた」は用言をふくむ言葉なので、「学生時代に」は連用修飾語です。②どこにある「店」なのかを説明しています。「店」は体言です。

- ①「むずかしい」以外の言葉は、「解いた」の修飾語です。②「友人に」以外の言葉は、「写真を」の修飾語です。

⑤ 修飾語は一つとは限りません。また、②ア「祖父は」と③ア「ぼくは」は主語であり、修飾語ではありません。

- 6 修飾語と被修飾語を近づけると、意味が正確に伝わりやすい文になります。

答え

- 1 ウ 2 ウ 3 キ 4 ウ 5 エ
- 1 取りかかった
- 1 イ 2 ア
- 1 1 むずかしい 2 友人に
- 1 ウ・エ 2 ウ・エ 3 イ・オ・カ (順不同)
- 6 わたしは買い物に出かけた母に急いで電話した。
(買い物に出かけた母にわたしは急いで電話した。)

考え方

1 ①をふくむ連は、第一連の内容ないよう（スーパーの魚や肉が、ちよつと前まで生きていたという気つき）をお母さんに言ったところ、お母さんが「命をもらって生きているのよ」「わたしたちは責任重大ね」と答えた、という内容です。それぞれの「……」って「……」のあとに、「答えた」や「言った」などの言葉をおぎなうと完全な文になりますね。よって、ここではあとに続くはずの言葉を省略する**ウ**「省略法」が使われていることになります。

2 「リレー」の特徴とくちょうを思いうかべましょう。リレーは、何人かの選手が、バトンを受けわたしながらゴールを目指す競技です。第二連のお母さんの言葉にあるように、わたしたちは「命をもらって生きて」います。これは、魚や家畜から「命」という「バトン」を受け取っていることと重なりますね。よって、正解は**エ**です。イの「食べないようにする」では、動物の命という「バトン」を受け取れないのであやまりです。

答え

1

2

エ ウ

考え方

- 1 「信じる」は動詞、ほかは形容動詞です。2 「あれ」は名詞、ほかは形容詞です。3 「正しい」は形容詞、ほかは名詞です。「願う」は、動詞「願う」の連用形「願います」から名詞になったもので、「い」で終わっていますが、形容詞ではありません。活用がないこと、「願いがかなう。」のように主語になることから、名詞だと判断できます。4 「明らかだ」は形容動詞、ほかは動詞です。

- 3 1 「見事だ」は形容動詞、2 「強い」は形容詞です。
5 「むかえる」は動詞ですが、「むかえ」は名詞であることに注意しましょう。「むかえが来た。」のように主語にもなります。

答え

- 1 1 信じる 2 あれ 3 正しい 4 明らかだ
2 1 (順に) ア・イ・エ・ア・イ
2 (順に) ア・ア・ア・ウ・ア・エ・ア・イ・ア
3 1 見事だ 2 強い
4 1 おだやかな 2 軽けれ
5 おくれる・来る (順不同)

考え方

- 1 自分の動作について述べている文を、相手にその動作をさせるという文になるよう、動詞に助動詞をつけて書き直しましょう。2 「着せる」とすると、自分の動作を表す一つの動詞になり、助動詞が使われていないのであやまりです。

- 2 1 母から動作を受けています。2 「案じる」とは「心配する」という意味です。「案じられる」とすることで、自然と心配する気持ちがわき上がってくることを表しています。3 5は「覚えることができます」「組み立てることができます」と言いかえることができます。4 6は「お客様」「社長」に敬意を表しています。
3 1 アとイは、「人々」「妹」から動作を受けている「受け身」、ウは「できる」という意味の「可能」です。2 アとウは「受け身」でイは「尊敬」、3 イとウは「可能」でアは「受け身」です。
4 「走る」に「ない」をつけると「走らない」となります。「ない」の前の「ら」はア段の音なので、「走ら+せる」とします。

答え

- 1 1 急がせる 2 着させる
2 1 ア 2 ウ 3 イ 4 エ 5 イ 6 エ
3 1 ウ 2 イ 3 ア
4 【例】先生が、部員たちに運動場を走らせる。